

町名	世帯数	総数		
		計(人)	男(人)	女(人)
河原子	914	1,839	916	923
東多賀	1,495	3,039	1,568	1,471
学区計	2,409	4,878	2,484	2,394

令和3年10月1日現在



発行責任者
 河原子学区コミュニティ推進会
 会長 鈴木 東男
 事務局 日立市東多賀町3-7-5
 ☎ 33-3746
<http://www.c-kawara.com>
 (ホームページ)

コミュニティ推進会会長挨拶 鈴木 東男



常日頃より、当コミュニティ推進会及び交流センターの運営に関し、絶大なるご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。さて、令和3年を振り返りますと、コロナ感染対策のため4月の総会

は中止となり、前年同様の書面表決によるスタートでした。令和3年度の事業は、計画していた敬老会・学区祭り・学区パレード・三世代レクリエーション・新年賀詞交換会等、コロナ対策として安全面を考慮し中止としました。皆様には、学区内の親睦・コミュニケーションを図る機会をご提供できず、大変申し訳なく思っております。一方良かった点は、(1)6月にホームページのリニューアルを行い、スピーディな情報伝達の改善を実施しました。(2)事業として、グラインドゴルフ大会(9月)再発見ウォーク(10月)、防災講演会(10月)を実施できたことです。交流センター運営面では、コロナ対策である「まん延防止措置・緊急事態宣言」を受け8月6日より9月30日の長期にわたり休館した結果、利用者の皆様が十分活動できなかつた点です。2月現在、日立市でも2月初旬よりオミクロン株が感染拡大しており、心配な状況になっております。第3回目のワクチン接種が始まりましたが、早く接種完了し予期される危険を回避する予策になれば良いと思います。当コミュニティ推進会は、引き続き安全・安心の確保に努めていきます。最後になりますが、河原子学区が令和4年度も明るく希望に満ちた年になることを祈念し、皆様と連携を図り安全で安心な学区の維持に全力で取り組んでまいります。一層のご支援・ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

防災士からのアドバイス②

懐中電灯と水を入れたペットボトルを
使えばルームライトに変身

前号に引き続き、防災時におけるペットボトルの利用についてご紹介します。災害が発生すると停電になる確率が非常に高いです。一般的に懐中電灯を備蓄している家庭は多いと思いますが、懐中電灯だけで部屋全体を明るくするのは、とても難しいです。スポット的に照らすことはできても、照明感覚で使用することはできません。そこで、水を入れたペットボトルと組み合わせることで、ルームライト感覚で使うことができます。懐中電灯を上向きに置き、その上に水の入ったペットボトルを置くだけです。ペットボトル内で水が光を反射し、部屋全体を明るく照らしてくれます。ぜひお試しください。



光輝くペットボトル



手打ちそば教室



11月27日(土)「手打ちそば教室」に参加させていただきました。そばを手作りするという体験は初めてで、そば粉から生地を作成し、形を整え、麺の形に切るすべての工程がとても新鮮でした。思っていたよりもとても難しく、長時間で苦戦しながらでしたが、完成させることができ嬉しかったです。そば作りは本当に難しく、水の加え方、捏ね方、切り方を習得するまでは講師の方々も何度も練習を重ねたと教えてくださいました。そば打ちをとおして参加者の方々とコミュニケーションが取れるのもイベントの大きな利点だと感じました。今回の教室への参加は生涯学習のひとつとして、とても有意義でした。



そば生地を作成



麺切り

手造りみそ教室



1月15日(土)河原子交流センターにおいて、日立百年塾市民教授、蛭田三雄氏を講師にお招きし「手造りみそ教室」が開催されました。
美味しい味噌ができるかと評判の教室で、募集から3日間で定員の20名が埋まるほどの人気です。蛭田講師の流暢な説明で、レシピに書かれていない細部まで細かく丁寧な説明に耳を傾け、楽しいひと時でアットという間の2時間の教室でした。国産の美味しく、安全な大豆・麴・塩を材料にみそ造りをしました。参加者はでき上がったみそが熟成できる日を楽しみに持ち帰りました。



大豆・麴・塩を混ぜます



豆の粉砕



大変お疲れ様でした



熟成を待ちます

手打ちうどん教室



2月19日(土)河原子交流センターにおいて「手打ちうどん教室」が開催されました。森鎮雄講師と指導者の方々のご指導のもと、うどん作り(生地作り、足踏み、熟成、生地伸ばし、切り)の基礎を学びました。
なかでも、生地伸ばしは悪戦苦闘しましたが、森講師と指導者の方々の親切丁寧な指導により、自分が作ったとは思えないとても美味しそうなうどんができました。午前中の短い時間でしたが、うどん作りをとおして参加された皆様と楽しいひと時を過ごすことができました。最後に、私の経験からうどんが作れる様になれば家族に喜ばれ一目置かれると思います。ぜひ次回の「手打ちうどん教室」へお子様やお孫さんとご一緒に参加されたら如何でしょうか。



生地の伸ばし



美味しそうなうどんの完成です

おもちゃライブラリー



私が小学生の頃に、よく子ども会等で利用させていただいた河原子学区コミュニティセンターで、また参加させていただけることが、とても懐かしかったです。おもちゃライブラリーはおもちゃの種類が多く、参加している子どもたちも、何で遊ぶか迷っていました。

ボランティアの方々のアットホームな対応により、参加できていますお母さん方もとても安心することができました。このような地域の活動があると、子育て中のお母さんたちも、同世代の子どもたちと関わることができ、お母さん同士が悩み等を相談する憩いの場所であると感じました



子どもたちの豆まきの様子



退治された鬼たち

消防団 詰所新築



地域の「安心」「安全」の新たな拠点

分団長 佐藤弘文

現在、旧河原子幼稚園の運動場跡地に、新しく河原子消防団の詰所兼車庫（2階建）を建設しています。（令和4年中に移転予定）

これまでの詰所は老朽化に加え交通量が多い交差点近くにあり車両の出入りに危険を伴っていました。新たな詰所の1階には消防車の車庫（装備品の収納スペースが充実）2階には分団員の待機部屋（窓からは太平洋が一望）敷地内には駐車場が設置されるなど利便性が飛躍的に向上します。私たち河原子消防団は、新たな詰所を地域の「安心」「安全」の拠点として、更なる防災力の強化を図ってまいります。



完成まじかの消防団詰所



窓からは太平洋が一望

防犯・防災委員会紹介



委員長 関 和則

令和3年度の防犯・防災委員会は、11名の委員で活動を行っています。その中で、防災士の資格の取得者が5名、救命講習修了証の取得者が11名、消防団へ所属している団員が5名在籍しており、防災の専門家が揃っています。主な活動は、防災講演会と防災訓練の計画・実施、防犯の啓蒙活動（青色パトロール運営）防災マニュアルの作成（防災井戸マップ・ハザードマップ他）等です。私たち防犯・防災委員会は、地域の方が安心・安全な住みよい街を目指して、日々活動を行っています。



防災委員会のメンバー

自主防災の取組について

交流センターの自主防災の取り組みについて、ご紹介させていただきます。このたび、交流センターでは火災・自然災害が発生した場合、利用者を迅速かつ適切に安全な場所への誘導と交流センターの運営に携わる方々の防災意識の高揚を図ることを目的に、人目が付きやすいメイン通路の壁へ「避難誘導ベスト」と「誘導棒」を設置しました。その他にも、メイン通路の壁に掛けてあった「防災ヘルメット」を、誰でも取り出せるように「ヘルメットスタンド（床置き型）」へ置き、利用者の利便性を向上させました。その他にも受付とホールへ設置しました。交流センターへ来館の際は、ぜひご覧になってください。



メイン通路の設置場所



ホールの設置場所

河原子の歴史(2)中世時代編

要害城は桜川の北岸要害の断崖に構築された三連郭の平城です。孫沢権大夫頼茂の居城と伝えられ、古くは対岸の角にあり、「孫沢館」とか「下孫館」とよばれていました。永禄五年（1562）八月相馬中村（相馬市）の城主相馬盛胤の軍勢と佐竹軍が孫沢原で戦ったときに落城したので、その後、要害城が築かれました。現在も堀の中には、お姫様の病気を治したと伝えられる泉が残っています。また、要害城は佐竹義宣の弟貞隆が岩城へ養子になってからは、平城（いわき市）と太田城（常陸太田市）間の往来時の休息所や宿泊所になったと伝えられています。その他にも河原子には、朝日氏や大内氏が館を構えていました。

参考資料 新郷土日立 日立市教育委会



要害クラブ(要害城跡)



頭の体操(2)

ある言葉を、変形した平仮名だけを用いて書いてあり、覚悟という漢字に見えますよね。



覚悟に関係した六文字の言葉です。さて、何と書いていますでしょうか。答えは次号です。

前号の頭の体操①の答えは「しんじあい」でした。



河原子の方言(2)



- ①車が危ないから道のキワ(端っこ)をあるけよ。
- ②キャツ(あいつ)の言うことは、何時もデホウラク(でたらめ)信用できない。
- ③シャツのボタンが、イッチグ・ダッチグ(ちぐはぐ)です。
- ④コジハン(おやつ)は、さつまいもとカンプラ(じゃがいも)だった。
- ⑤暗くなったから、トボウ(雨戸)をタデロ(しめる)。